

平成 18 年度教師海外研修 実践報告書 派遣国:(マレーシア)

1. タイトル :
2. 氏名 : 堀辺 薫
学校名 : 大阪府立山田高校 担当教科 : 英語
3. 実践教科 : 英語 時間数 : 4 時間
4. 対象生徒・学年 : 1 年 対象人数 : 40 人
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

1 年生の多くは、NET (Native English Teacher) を除いては、外国の人々と接する機会が少なく、あまり他国の文化に対して興味を持ってはいない。また、テレビや映画、雑誌などからは欧米の文化や情報に接することは多いが、それに比べて、地理的に一番身近なはずのアジアの文化、情報に接する機会は少ない。

今回はマレーシアを中心に他国の文化、生活を知ること。日本文化を意識すること。また、簡単な英語で自分たちの考え、情報を伝えることを目的とした。

また、マレーシア・ボックスで使用したパーム椰子の種、蛭ソックス、軍票の説明を通して、これから環境問題、歴史を考えていくきっかけとする。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ:マレーシアを知る ねらい:マレーシアを知り興味を持たせる。 NET の説明を聞いてリスニング能力を高める。	TT (ティームティーチング) (1) マレーシア・クエスチョンズの答えを考える。 (2) マレーシアの写真を見ながら解答し、マレーシアについて説明する。	マレーシア・クエスチョンズのプリント マレーシアで収集した写真、通貨等、民族衣装等 プロジェクター、スクリーン パソコン
2 限目 テーマ:カルチャー・ボックス ねらい:他国の文化に触れ、楽しむ。 日本文化を意識し、英語で説明できるように考える。	(1)カルチャー・ボックスの中の品物について、推測し、自分たちの考えを発表させる。 (2) ジャパン・ボックスを作るとしたら何を入れるか考え、それを説明する英文を作らせる。	カルチャー・ボックスのプリント チャイナ・ボックス
3 限目 テーマ:空港・機内での会話 ねらい:自分が海外に行くことを想定して必要な表現を身につける。 絵表示を通じてイスラム文化に触れる。	(1) 空港・機内での用語を練習する。 (2) 機内での会話を聞き練習する。 (3) 機内アナウンスを聞き、内容を理解する。 (4)絵表示のマークを見て何を意味するか考える。	教科書 CD プロジェクター、スクリーン パソコン
4 限目 テーマ:マレーシア・ボックス ねらい:マレーシアの文化に触れ、環境問題、歴史を考える。 英語で自分たちの考えを伝える。	(1) マレーシア・ボックスで、各品物について考え、グループごとに発表する。 (2) マレーシアの写真等を見せながら説明する。	プロジェクター、スクリーン パソコン マレーシアの地図 マレーシアで収集した写真、品物等

1 限目の授業については、この教師海外研修とは別に行われたものである。

NET (Native English Teacher) が、春休みにマレーシアの半島側に旅行に行ったのでそれを題材にして、ティーム・ティーチングを行おうということで、5月頃に授業をした。クイズや写真、紙幣、衣装などを使ってマレーシアについて、その宗教、他民族国家であること、首都、文化についての説明をした。生徒たちは、これまではマレーシアについてはほとんど知識のないようであったが、興味を持って授業を受けていた。

JICA の教師海外研修でマレーシアの方に応募した理由のひとつには、この授業から発展させていけたらという気持ちがあった。

2 限目の授業は夏休み前に行った。JICA の研修に「カルチャーボックス」があり、非常に興味をおぼえ、実践してみたいと思っていたところ、ちょうど試験前に時間があつたのでやってみることにした。中国茶の道具を使ってやってみると、生徒からはいろいろと面白い発想が出てきて楽しかった。

チャイナ・ボックスの後に、では、自分たちが日本を海外の人に紹介するとしたら、どういふものを使うだろうということで、ジャパン・ボックスに入れるものを各自で考え、それを説明する英文を作らせた。お箸、独楽、剣玉、囲碁、招き猫などいろいろと出てきて、それぞれに頭をひねって説明する英文を考えていた。

3 限目はオーラルコミュニケーションのテキストに “Could I Have an Extra Blanket?” という、空港や機内での表現を学習するレッスンがあつたので、それを利用した。テキストを使って空港、機内の用語、機内での会話表現を練習し、機内アナウンスのリスニングを行った後で、研修中に撮影したマレーシアの空港内の **Bantuan Kecemasan (First Aid)** や **Surau (Prayer Room)** の表示を見せ、何を表すか考えさせた。生徒はどちらもわからないようなので、ヒントとして赤十字のマークを描いた、そして、なぜ、十字ではなく月のマークなのかということでイスラム教、イスラム文化の説明を行い、4 限目の導入とした。

次の時間はまず、マレーシアの地図を見せてサバ州の説明をした。次にパソコンとプロジェクターを使って、ダカット村での写真を見せて村の生活や、村でのジャパン・ボックスの様子を説明した後、マレーシアボックスを行った。箱の中に、「**Kiblat** (旅行のときにメッカの方向をさす方位磁石)、パーム椰子の種、軍票、ニッパ椰子で作った細工物 (ご飯を蒸すのに使う)、蛭ソックス」を入れ、箱全体はサロン (布) で包んだ。

6 グループにわけて各代表に一つずつ品物を取ってもらったが、最後のグループはいくら探しても何も無い。それではとサロンをほどいて渡した。各グループでそれぞれ、それはどういうものなのか考えて、それをクラス全体に説明する英文を考えるように指示した。カルチャーボックスは2回目なので、どう反応するかと思つたが、始めてみるとグループで楽しそうにああだ、こうだと考え、討論していた。

一定の時間をおいて一班ずつ代表に発表をしてもらった。「方位磁石」の発表の後ではイスラム教について、「サロン、細工物」の発表の後では、村の生活について、「蛭ソックス」の後では熱帯雨林について、プロジェクターで写真を見せながら説明した。特に蛭や、団子虫の写真は反応が大きく面白かった。

ニッパ椰子とパーム椰子の違い、パームオイルについて、その有用性、問題点についても説明した。また軍票についても「何で **Japanese** って書いてあるかと思つた」という声があがり、戦争のことや、日本とマレーシアのかかわりについて話した。

生徒はどの授業も興味を持って取り組み、クイズやカルチャー・ボックスも楽しんで取り組んでいた。自分たちの答えとこちらの説明に「あたった!」とか「絶対、こうだと思ったのに…」、「この部分ではあってるやんなあ。」と反応も大きかった。マレーシアにも親しみや興味をもってくれたと思う。

また英文を作ったり、発表したりする際には、細かな間違いなどは指摘せず、とにかく自分の伝えたいことを何とか表現してみることに重点を置いたが、代表の発表ということもあり、物怖じせずにみんなの前で発表していた。

現在、担任を持っていないので、ホームルームで授業はできず、英語の時間に授業をすることにした。1年生で行うことにしたが、一クラスしか持っていないので、他の先生方と進度をあわせながら時間を作らなければならない、多くの時間を割くことができない。テキストと組み合わせて、マレーシアの説明をするなどの工夫をした。

海外研修が盛りだくさんの内容だったので、まだまだ生徒に伝え切れていないことが多い。特に、時間の関係であまり詳しい説明ができなかった、パームオイルを入り口とした環境問題、日本とマレーシアの歴史については今後の授業で機会を作って深めて行きたいと思う。また、来年度、担任を持ったら、ホームルームなどを使って違う切り口からも授業を行いたい。

パソコンやプロジェクター、スクリーンなどの用具を使い慣れていないので、準備に手間取ったり、準備の段階ではできていたことが、教室ではできなかつたりトラブルがあり、授業のテンポがうまくいかなかった面があったのが残念だったが、生徒たちはあまり気にせず、取り組んでくれたのが幸이었다。